

十勝連峰（美瑛岳・十勝岳・富良野岳）山行報告

【山城】北海道・十勝連峰：美瑛岳・十勝岳・富良野岳

【日程】2017年7月1日（土）～7月4日（火）

【メンバー】CL 菊池・菅井・登坂

【行程】

- 1日 成田―千歳空港―レンタカー―上富良野―吹上温泉・白銀荘（泊）
- 2日 白銀荘―望岳台登山口（939m）―雲ノ平分岐―美瑛岳（2052m）―十勝岳（2077m）―十勝岳避難小屋―望岳台登山口 曇り・一時雨・強風・ガスで視界不良
- 3日 白銀荘―十勝岳温泉登山口（1260m）―カミホロ分岐―富良野岳稜線分岐（肩）―富良野岳（1912m）―三峰山―十勝岳温泉分岐（上富良野岳）―カミホロカメットク山―分岐―カミホロ分岐―十勝岳温泉登山口 晴れのち曇り
- 4日 白銀荘（吹上温泉露天風呂入浴）―旭山動物園―千歳空港―成田 曇り時々雨



- ・今年の1月に白銀荘ベースで富良野岳・三段山周辺の山スキーを経験、北海道の厳冬期山スキー初体験の素晴らしさを実感できた。その時に富良野岳の雄姿を目の当たりにして、花の時期に是非訪れたいと考え、LCC（ジェットスター）の利用、白銀荘宿泊にて極めて安価なツアーが実現された。北海道は7月に入ると観光シーズンということで、航空券・レンタカーなど高価となり費用がかさむのが一般的であると考えていた。

今回は5月20日ごろの予約で、航空券往復15000円/一人、レンタカーも「ちょいのりレンタカー」・コンパクトカーが3泊4日で11800円、宿は素泊まり2600円/一人の白銀荘は豪華な露天風呂完備の素晴らしい温泉、上富良野のコンビニで買い出しをして、宿では冷蔵庫・食器・電子レンジなどすべて完備しており、至れり尽くせりの設備である。旭山動物園の入場券・交通費を含め、一人の徴収額は32000円（食費は含まない）ほどと信じられないような費用で、素晴らしい山行ツアーを楽しむことができた。



厳冬期の富良野岳

- ・立案段階で富良野岳から十勝岳への縦走を考えたが、カミホロ避難小屋の混雑・重荷を考え、われわれ高齢者パーティでは厳しいと考え、三山の日帰り3本として軽量化を図った。天候が安定せず、少なくとも花の百名山・富良野岳は好天の日を実施したいと考えた。ツアー直前まで「てんきとくらす」では目まぐるしく山岳天気の変否は変化していたが運を天に任せて、最悪観光旅行への変更もやむを得ないと覚悟して成田を出発した。千歳空港に到着すると晴れていたが、富良野では曇り、上富良野では強いにわか雨模様、半ば諦めの境地で吹上温泉・白銀荘に到着した。
- ・1日目（7/2）は山岳天気予想では曇りベースで午後には雨が混じる「C」表示である。早いスタートを目指して、4時半頃朝食、美瑛岳を目指して望岳台登山口に向かった。6：10スタート時点では、曇りベース、視界はそれほど悪くなく、天気の好転を祈りながら、エゾイソツツジなど観察しながら緩やかな溶岩台地を進んだ。



望岳台登山口をスタート



エゾイソツツジ

十勝岳避難小屋の見える雲ノ平分岐点で左の美瑛岳方向に向かうと徐々に高山植物が多彩となり、エゾイソツツジに交じってウコンウツギ・メアカンキンバイ・イワブクロ（まだ時期が早く開花しているのはわずか）が見られるようになった。残雪の雪渓を数回ト

ラバーズするが、その手前からエゾノツガザクラ・エゾコザクラの絨毯が見られるようになり、写真撮影が忙しくなってきた。



火山特有の地形は迫力十分、ポンピ沢は水量がやや多く、渡渉点を慎重に選んでバランスを崩さないように渡った。その後は標高差約 200mの急登（今回の十勝連峰で最も厳しい急登）を焦らずゆっくり頑張り、美瑛富士への分岐点（大きな雪渓の脇）で休憩したが、そのころにはガスで視界不良となってきた。徐々に斜度が緩み再び花が多くなっており、ミネズオウ・チングルマが見られたが、キバナシャクナゲのオンパレードは見ごたえ十分であった。ガスで視界不良のため。フォーカスが合わず、群落の写真は撮影できなかった。美瑛岳の狭い頂上で記念撮影と小休憩、天気悪化を懸念するもの先に進んでみた。



当初美瑛富士への周回ルートを考えてたが、急な下りと渡渉を不安に考え、時間は十分あり、登山道がしっかりしているものと考え、十勝岳への縦走に変更した。下りのガレ場でガスが濃く視界が悪くなり、十勝岳への登山道が不明瞭となり少し美瑛富士方向に進んでしまったが、すぐに引き返し十勝岳方向への登山道を発見できた。その後しばらくは快適な緩やかな稜線に沿った登山道を進む。十勝岳への縦走路の後半になり、明るくなり天気が好転するかと思うと東の間、すぐにわか雨模様になってきた。雨カッパを上下装着、そのうち強風と大雨模様、霰も混じる悪天になっていた。戻ることはできず慎重に進んでいくと、十勝岳頂上近くの平坦な火山灰の台地地形では雨は止んだが視界 10m以下のホワイトアウト、登山道は不明瞭・踏み跡も殆ど分からず、標識が 30m間隔くらいにあるが、先の標識を発見するのが困難となった。地図とコンパス・GPSをチェックしながら、なんとか登山道のある南西・西方向に進み、頂上への斜度が増しくてく

ると、登山道が明瞭となってきたで一安心、十勝岳山頂はガスの中で視界はゼロ、風もやや強く、記念撮影してすぐに下山した。疲れも溜まってきており、視界不良が続く中、しばらくはグランド火口からの噴煙による臭気の漂う中、安全地帯まで下降、避難小屋で休憩、11時間余り（標準歩程時間9:15）の超ロング山行を何とか無事終了できた。



小生、十勝岳は百名山を目指していた1997年に登頂して以来20年ぶりの2回目であるが、2回ともガスガスの中であった。ゆっくりペースで体力的にはほぼ問題なかったが、視界不良の中、十勝岳への縦走に変更したことはやや無謀であったと反省している。

- ・2日目（7/2）は山岳天気予報「てんきとくらす」ではAランクであるが標高1012mの白銀荘ではガスっており、標高1260mの十勝岳温泉登山口をスタートする頃にはガスが晴れてきてテンションは一気にアップ。安政火口の噴煙・夫婦岩・三段山の迫力ある景色が迫りやがて渡渉、上富良野岳の下部の急斜面をトラバースするように登山道は進んで



いる。



華やかなウコンウツギが多くなり、その向こうに富良野岳の雄姿が見えてきた。途中で

残雪の雪渓を数回通過、振り返ると残雪と緑のコントラストが素晴らしい山麓の向こう



に十勝岳、さらに遠く残雪を頂く大雪の山々も遠望できる。



長いトラバース登山道がやがて稜線を目指して標高差100mほど進むといわゆる肩の部分の富良野岳稜線分岐に到達した。一気に視界が広がり素晴らしい眺めである。重荷を担いだ縦走者も見られる。ここから頂上までは、お待ちかねの花の百名山に相応しいお花畑を満喫しながらの登高である。ハクサンイチゲの群落は見事である。



バックの景色を変えていろいろなアングルで撮影した。山頂直下は残雪豊富、残雪の白と緑のコントラスト、エゾコザクラのピンク、ハクサンイチゲの鮮やかな純白、絵になるショットを撮りまくり、興奮冷めやらない状態で頂上に到達した。今回の山行の最大の目的である、花の富良野岳を堪能でき、記念撮影。なんと少し遅れて登頂した単独の女性と言葉

を交わし、写真をとったのですが、なんと千葉の大宮団地の住民で、登坂さんの

お住まいの近くであり、ビックリポンでした。下山でも目線を変えた花の景色を楽しめ、チングルマの群落・ショウジョウバカマの初々しい紫色に感動した。





- ・三峰山・上富良野岳への縦走は概ね緩やかな稜線で楽しめるが、天気は悪化、曇りベースとなりガスで視界不良となってきた。時間的に余裕があるため予定通り、カミホロカメットク山までピストンし周回ルートのカミホロ分岐に向け下山した。残雪の脇を緩やかに進んでいくとやがて急な林間の登山道となるが、延々続くとしっかり整備された階段の登山道である。やがて沢地形になり雪渓を暫く進み、沢様に水の流れる登山道を通り、再び雪渓上を歩いて、往路で通過したカミホロ分岐に到達した。
標準歩程 6 時間 45 分ほどを休憩を含め 9 時間半ほどで楽しんだ。



- ・2 日間で予定した十勝連峰の 3 山を踏破でき大満足、白銀荘の温泉で汗を流し、食料が尽きてしまい、上富良野のコンビニまで買い出し、最終日の天気は良くない予想であ

り、三段山を予定しているが、中止の可能性が強く、350m 1 のビール 1 本、氷結 2 本でゆっくり夕食を楽しみながら、2 日間のいろいろあったが、変化に富んだ素晴らしい山行の余韻に浸りながら、山談義に花を咲かせた。

- ・最終日はやはり雨模様、きっぱり登山は中止した。時間は十分、小生は気になっていた



た水着で入る吹上温泉の露天風呂を（白銀荘から 500mほどの地点で溪流・滝脇にある）楽しみ、その後白銀荘で最後の入浴を楽しんだ。

そして、悪天時の山行中止の時に、ちば山仲間が良く訪れる旭川の旭山動物園にわれ

われも訪れることに決定。童心に帰って2時間ほど楽しんだ。余裕を持って千歳空港に到着、海鮮弁当とビールで打ち上げの乾杯、極めて安い清算を済ませ、少し窮屈なジェットスターに乗り込んだ。

これほど安く楽しめるなら是非来年も計画したいものと考えています。候補は羊蹄山・暑寒別岳・余市岳などなど……

